

talk! talk! talk! 俳優・阿部力さん



俳優

阿部力さん

人気マンガを実写化し話題となったドラマ「花より男子」の出演が記憶に新しい俳優、阿部力さん。日本と中国のクォーターだという彼は、得意の語学を活かしながら日本をはじめアジアで活躍を続ける注目の若手俳優だ。そんな阿部さんがもうひとつの生活の拠点である台湾でよく手にするというのが、2005年に購入した一眼レフカメラだ。今回は独自の鋭い感性を活かした写真の数々を紹介いただきながら、カメラを手にしたきっかけからその楽しさまで、カメラについてたっぷりとお話いただいた。

プロフィール

あべ・つよし。1982年、中国黒龍江省出身。中国と日本のクォーター。9歳で日本へ移住、その後帰化する。18歳で北京に留学し、1年間北京電影学院で研修を受ける。香港屈指の監督フルーツ・チャンの映画「人民公廁 (PUBLIC TOILET)」に主役に抜きさされ香港でデビュー、同作はヴェネチア国際映画祭の招待作品となる。台湾や中国で活躍を続け、2005年に映画「大停電の夜に」(源孝志監督)で日本映画デビュー。ちなみにこのときの役名、李冬冬(リー・トントン)は帰化前の本名だったそう。2005年に人気マンガをドラマ化した「花より男子」(TBS系)に美作あきら役で出演、一躍話題になる。現在は台湾と日本を行き来しながら、国境を越えて活躍を続けている。今後、映画「ラフ」(大谷健太郎監督)に水泳自由形の日本記録保持者という仲西弘樹役で出演する。長澤まさみさん演じるヒロインをめぐり、速水ももちさん演じるライバルの大和圭介と恋と水泳で火花を散らすとか。「ラフ」は2006年8月26日公開予定。

Beginning 出会い

シャッター音に惹かれて 友だちに感化され手に入れたFM3A

写真を撮り始めたきっかけを教えてください。

18歳のとき北京に留学したんです。そのときに、行った場所を記念に残したいなと思って最初にビデオカメラを持って行って撮影をしていたんです。それが楽しくなってしばらく撮っていたんですが、もっと手軽に残せる方がいいなと思ってデジタルカメラを買いました。デジタルカメラはすぐに撮れてすぐに見れて、こっちの方が実用性があるんじゃないかと思って、それからデジタルカメラで写真を撮るようになりました。旅行や友だちと遊びに行くときには必ず持って行って撮っていましたね。

今日お持ちいただいたのは一眼レフカメラですね。

はい、FM3Aです。これを買ったのは去年の2月くらいだったと思います。友だちの紹介であるフォトグラファーさんと友だちになって、その方がFM3Aを使っていたんですよ。

最初、フォトグラファーさんのFM3Aを借りて撮らせてもらったんです。マニュアルのカメラはピントを自分の合わせたいところに自由に合わせられるからいいって聞いて、撮ってみたいと思ったんです。実際にカメラを借りて撮ってみたら、「自分の欲しいところだけ撮れる」という感じがして面白いなと思いました。それに撮っているときのシャッター音がいいんですよね。「バシッパシッ」っていう感じがすごく気持ちよくて、自分も欲しくなって同じカメラを買ったんです。

同じFM3Aを。

はい、色もレンズもまったく同じものを買いました。あまりカメラに詳しくありませんでしたし、使いやすいと聞いたので同じものがいいなと思って。それに見た目もかっこいいですね。別に撮らなくてもただ身に付けているだけでファッションアイテムになりそうですね。

カメラの使い方などは、そのフォトグラファーさんに教えてもらったりしたのですか？

ちょっとだけ教わりましたが、あとは自分でなんとなく.....だから技術的なことはまだ全然わからないんですよ。今はカメラまかせで感覚で撮っているというか、自分では撮りたい構図を切り取るだけで、光の加減を調節したりそういうことはまだ考えられないですね。

特別に勉強したりはしていないんですが、写真の出来上がりを見ながらこう撮るとこうなるんだっていうのを確認したりはしています。そうやって撮りながら少しずつ理解していけたらいいなと思います。まずこのカメラを使いこなせるようになるまでは次のカメラに進めないと考えていますし、とにかくこれでしっかり撮れるようになることが目標ですね。

Pleasure 楽しみ

1枚1枚じっくり撮る 楽しいのは出来上がりを待つ時間



写真を撮っていて、1番楽しいと思うのはどんなときですか？

デジタルカメラと違って、フィルムだとどういふふう撮れたのかすぐにわからないですね。だから、写真が出来上がるまで待っている間がすごく楽しいんですよ。特に、自分が撮りたいなと思えるような被写体、偶然でもそういう絵に出会えたときがいいですね。さらに待つのが楽しくなります。あそこで撮ったのはちゃんと撮れているのかな、こんな写真になるんだ！って、見るとすごく感動するんです。

普段はどんな時に撮影されているんですか？

台湾にいるときはいつも持ち歩いて撮っています。でも、日本にいるときには何を撮ったらいいのかわからないですね。友だちとどこかに出かけるときには日本でも撮るんですが、都内だと何を撮っていいのかわからないんですよ。

阿部さんは現在、台湾と日本、両方を拠点に活動されているんですね。

はい、そうです。1年のうち半分くらいは台湾にいます。台湾の街は東京みたいなのに都会的な所もあるんですがまだそうじゃないところもあって、なんとなくそういう街並みの方が撮りたいなと思う気持ちが出てくるんですね。なぜでしょうか、東京はちょっと整い過ぎている感じがするのかもしれない。

街を撮影するのが好きなんですか？

うーん.....でも実は、街や物を撮るとき、どう撮ればいいのかわからないと思うことがあるんです。だから僕は街よりも人物、友だちを撮ることが多いんですよ。友だちと遊びに行くときに、自然な表情を狙って撮ったりするのが好きなんです。難しいですよ、自然な表情を撮るのが。僕が撮るときは盗み撮りみたいなですよ。友だちが盛り上がっているところをじーっと隅から狙って撮る。だからすごく1枚を撮るのに時間がかかるんですよ。

シャッターチャンスをじっくり待って撮っているんですね。

そうですね。人物に限らず、1枚撮るのにすごく時間がかかるんですよ。ピントを合わせたり構図を考えていたりするとなかなか押せないんですよ。あの、自分では結構考えて撮っているつもりではいるんですが、僕の写真ってどんなふうに見えますか.....？

構図やピントはもちろん、光の加減もちゃんと工夫されていますよね。じっくり考えて1枚1枚丁寧に撮られた写真だと思います。本当にそう見えますか？ 光ってすごく大事ななと思って撮っているんです。他の人に見てもらえるとうれしいですね、ありがとうございます！

Photo's 作品紹介

1年の半を過ごす台湾 ロケで訪れたという中国・青島にて







写真を紹介していただきましょう。

1枚目はフォトグラファーをしている友だちのFM3AをこのFM3Aで撮ったものです。2枚目はその友だちの顔写真。3枚目はその彼が台湾に遊びに来た時に撮ったスナップですね。台湾の街角にはこんなふうになんか野良犬がいるんですよ。

4枚目はどこかのグラウンドでしょうか？ 2枚目もそうですが、光をうまく使った写真ですね。

これは逆光を使って撮れたらいいなと思ってとりあえずシャッターを押してみた写真で、出来上がってこんなに思い通りに撮れるとは思ってなくて自分でも驚いた写真なんです。5枚目からは以前仕事のロケで中国の青島（チンタオ）に行ったときに撮ったものです。浜辺で遊んでいる人たちのスナップと、酒瓶ですね。

モノクロ写真とカラー写真、両方撮られるんですね。

はい。でもどちらかというと、モノクロの雰囲気が好きで、モノクロで撮ることが多いです。なんとなく古臭い感じとかノスタルジックというか、僕は基本的に明るいよりは暗い印象のするものが好きなんです。

では、1番のお気に入りの写真はありますか？

酒瓶の写真と、あとは7枚目の子どもの写真です。青島のロケが終わってもう帰ろうというときに、この子が急に目の前に飛び出てきたんですよ、裸で（笑）。それで、とっさにシャッターを押した写真なんです。だから他の時間をかけて撮った写真とはちょっと違う感じがして気に入っています。

Future これから

新たな役に刺激を受けながら インターナショナルな俳優を目指して

阿部さんのデビューは香港・韓国の合資映画だったそうですね。

はい、フルーツ・チャンという監督の作品に出ました。撮影をしてから2年後に、その映画がヴェネチア国際映画祭に出ることになって、出来上がった映画をその会場のスクリーンで初めて見たんです。そのときにとても感動して、映画に対して思う気持ちが強くなったというか、やりがいがある仕事だなと思いましたね。

俳優という仕事は楽しいですか？

楽しいですよ。自分は1人しかいないけれど、いろいろな役を演じるということは自分以外のいろいろな人に出会えるような感覚になるんです。役になりきるには自分を変えなくちゃいけないときもあるけれど、それが新鮮ですごく楽しいですね。

目指す俳優像、目標などはありますか？

うーん.....僕が好きなのは、大沢たかおさんとトニー・レオンさん。2人ともインターナショナルな活躍をされています。僕ももっといろいろな国でやってみたいと思っています。国によってそれぞれ言葉も環境も違いますから、そこで接して仕事していると自分の中でまた新たな一面が見えたりするんです。自分が変わっていく、変えていくことが面白い。違う世界を見ることにすごく興味があるんです。

新しい役をやるたびに、新しい刺激が得られる仕事なんですね。

はい、だからこれからはもっといろいろな役をやりたいです。

では最後に、これから撮ってみたいもの、写真でチャレンジしてみたいことなどはありますか？



チャレンジしたいこと.....あ、やってみたいのは自分で撮った写真をコンクールなどに出してみたいんですよ。自分の実力を見てみたいというか。いずれは自分の作品集を作っているいるな人に写真を見てもらって、そうなったらいいですね。
それから、きっとこれから仕事でいるいるなところに行くチャンスがあると思うんです。そのときはカメラを持って行って、世界中で写真が撮れたらいいなと思います。

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.